

幹線の空調ダクト継ぎ目にアスベストが使用されていた。

3月11日と4月7日の大地震により幹線の空調ダクトが落下しました。その継ぎ目のパッキンにアスベストが含まれているのではないかとという組合員からの指摘があり、会社に問い合わせた結果、非飛散のアスベストが使用されていることが明らかになりました。

6月10日に開催された支部アスベスト問題学習会や仙台地本機関紙「こころう仙台」で報告されていますが、支部としてのこれまでの経過と取り組み、そして課題について報告します。

これまでの経過

5月23日 組合員から新幹線廃車解体場に鉄柱にビニールが巻かれたものがあり、それにアスベストが使用されているではないかと指摘があり、支部役員が現場で写真を撮影。

5月25日 各科で組合員が現場管理者に、新幹線廃車解体場のビニールが巻かれていたものにアスベストが使用されているではないかと指摘。また、巻かれているビニールの破れを合わせて指摘しました。

5月26日 会社からの回答があり、「（指摘されたとおり）アスベストが使用されている。しかし非飛散型のアスベストなのでそのままでも飛散しないが、念のためビニールを巻いている。後日、業者が回収予定。知らせとて感謝」と回答がある。

その後、設備保全の組合員に、これまでの経過を報告すると、会社の取り扱いで良いのではないかと説明がありました。

その数日後、ビニールが巻かれていたものは片付けられてい

ました。

6月10日 アスベスト問題学習会終了後、組合員から「落下したものは片付けられたが、現在使用されているものについて大丈夫なのか。もっと調査し、会社に対して安全性を求めていく必要があるのでは」との意見が出された。

6月13日 台車科で空調ダクトを見上げると、空調ダクトが落下した跡は空洞で、黄色い断熱材のようなものが見えた。

台車科長に「空調ダクト継ぎ目の露出している場所が何力所もあるが、ノンアスベストのものとの交換した物なのか。もし、非飛散型のアスベストが使用されているとしても地震等で振動したら飛散する可能性があるのではないのか。調査してほしい。」と伝えたら、科長は調べてみるかと返答した。

後日、空調ダクト継ぎ目の露出部分等の現場調査を行い、6月17日にあらためて台車科長に空調ダクト継ぎ目について聞くと、科長から「ダクトの継ぎ目は確かにむき出したまま。これ

は、地震によって壊れた場所の吊り金具補修のため。現在工事中なので、もう少し待ってほしい」との話がされ、台車科で働く者にとってアスベストの使用が明らかにになったのだから、今後撤廃してほしいとお願いしたが、科長からは「それは必要と思うが、これだけの物を撤廃することができるかわからない」との話がされました。

これはもしかして？ と思ったら是非報告を

その後、支部アスベスト対策委員会では、今後の経過の報告を行いました。

対策委員会では、今後空調を直してもあれだけの地震の震動でアスベストや他の粉塵がダクトの中に残留していることが想定されるので、空調設備を使用する際には環境測定が必要ではないのかという意見が出され、支部として、空調を送風するときにはアスベストの飛散が大変心配なので、環境測定を行うようにと会社に要請しています。

会社は、この間アスベストを使用している箇所はないと言ってきましたが、この震災でアスベストがいまだ使用されていることが明らかにになりました。

本来なら、アスベストが出た時点で幹線で働く全ての人に対してアスベストが使用されていた箇所があったことを公表し、適切な処置をしなければなりません。

ん。しかし、以前にもシャッターのブレーキドラムの交換したものを放置していたところ、組合員がこれにはアスベストが使用されているのではないかと指摘により、ビニール袋に入れて処置を行った経緯があります。

今後も、アスベストの危険性を学習し、職場からアスベストをなくしていくために支部全体で取り組んでいきたいと思います。

※職場の中で、アスベストかも？と思われる箇所・部品がありましたら、是非、各分会の担当者へ報告をお願いします。

支部アスベスト対策委員会
渡辺

何で国労？
入れば分かるその魅力

高橋進さん（台車分会）
国労東日本2011年度組織拡大標語優秀賞受賞

機関紙表彰の部（優秀賞受賞）

仙総支部「団結」
組立分会「ガンバ組立」